

# 稲美町水道事業経営戦略【概要版】

## 令和8年3月

### 第1章 経営戦略策定の背景

#### (経営戦略策定の背景)

水道事業を取り巻く経営環境は、人口減少、節水意識・技術の向上等による有収水量の減少、高度成長期に整備した施設の大量更新、近年頻発する自然災害への対応等、厳しさを増しています。とりわけ人口減少は、水道経営では解決困難な外部的要因であるにもかかわらず、料金収入の減少につながり、水道事業の存続に直結する問題となっています。

そのため、総務省は、全国の水道事業体の中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を早期に策定し、この厳しい状況の中で安定したサービスの供給が持続できるよう、水道施設等の計画的な更新を進め、施設や管路の健全性を維持し、組織や事務事業の効率化、施設管理の見直し等経営基盤強化のための取組みを推進するほか、投資費用の合理化を前提とした「投資試算」と「財源試算」を均衡させた収支計画を策定し、中長期的な視野で水道事業の経営に取り組んでいくことを要請しています。

稲美町の水道事業についても全国の例に漏れず、給水人口の減少に伴い、給水収益が減少傾向にある一方で、老朽資産の大量更新期が到来しています。

そこで、将来にわたり安定しておいしい水を届けることを目的として、中長期的な経営の基本計画である稲美町水道事業経営戦略（以下「本計画」という。）を策定しましたが、策定から5年が経過しており、事業環境の変化がみられることから、このたび、見直しを行いました。今後は、見直した本計画に基づき、中長期的な視野で安定的な水道事業の経営に取り組みます。

#### (本計画の位置付け)

本計画は、計画的かつ合理的な経営を行うことにより収支の改善等を通じた経営基盤の強化を図るため、第6次稲美町総合計画及び稲美町公共施設等総合管理計画等の町全体に係る計画に基づき、稲美町水道ビジョン、アセットマネジメント等水道事業に係る諸政策を経営面から位置付けるために策定するものです。

#### (計画期間)

本計画の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間とします。

### 第2章 稲美町水道事業の現状

#### (事業の概要)

稲美町の水道事業は昭和45年4月1日に、それまでの西部・東部・南部簡易水道が統合して誕生しました。当時の計画給水人口は19,000人、計画最大給水量は7,600m<sup>3</sup>/日でした。以後、第1次拡張事業、第2次拡張事業において、給水人口、給水量ともに伸び続けましたが、平成10年代以降から人口の増加が落ち着き、節水意識の向上等もあり、給水量も減少傾向にあります。現在の計画給水人口は30,700人、計画最大給水量は10,900m<sup>3</sup>/日で、令和6年度末の給水人口は30,377人、1日最大配水量は9,281m<sup>3</sup>/日となっています。

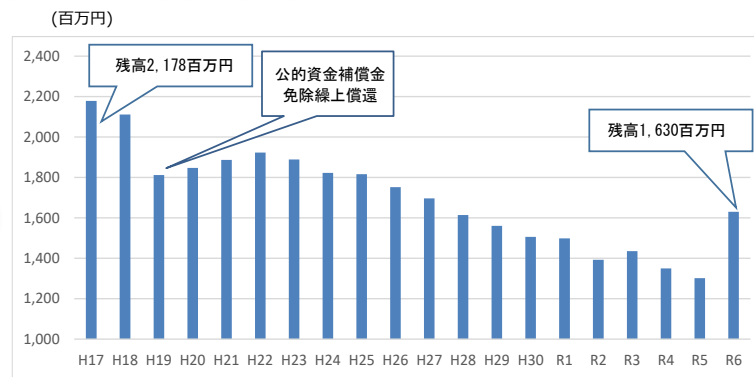
令和6年度末現在の水道管（導・送・配水管）総延長は、288kmとなっています。

#### (これまでの主な健全経営化の取組み)

近年の水道事業の経営状態は健全な状態ですが、これを維持するため、さまざまな取組みを行ってきました。

財政分野では、経営基盤強化のために令和7年4月に15%の水道料金の値上げを実施しました。

投資分野では、平成23年度から企業債の借入を当該年度の償還金程度または償還金以下に抑え、企業債残高の抑制に取り組んでいます。

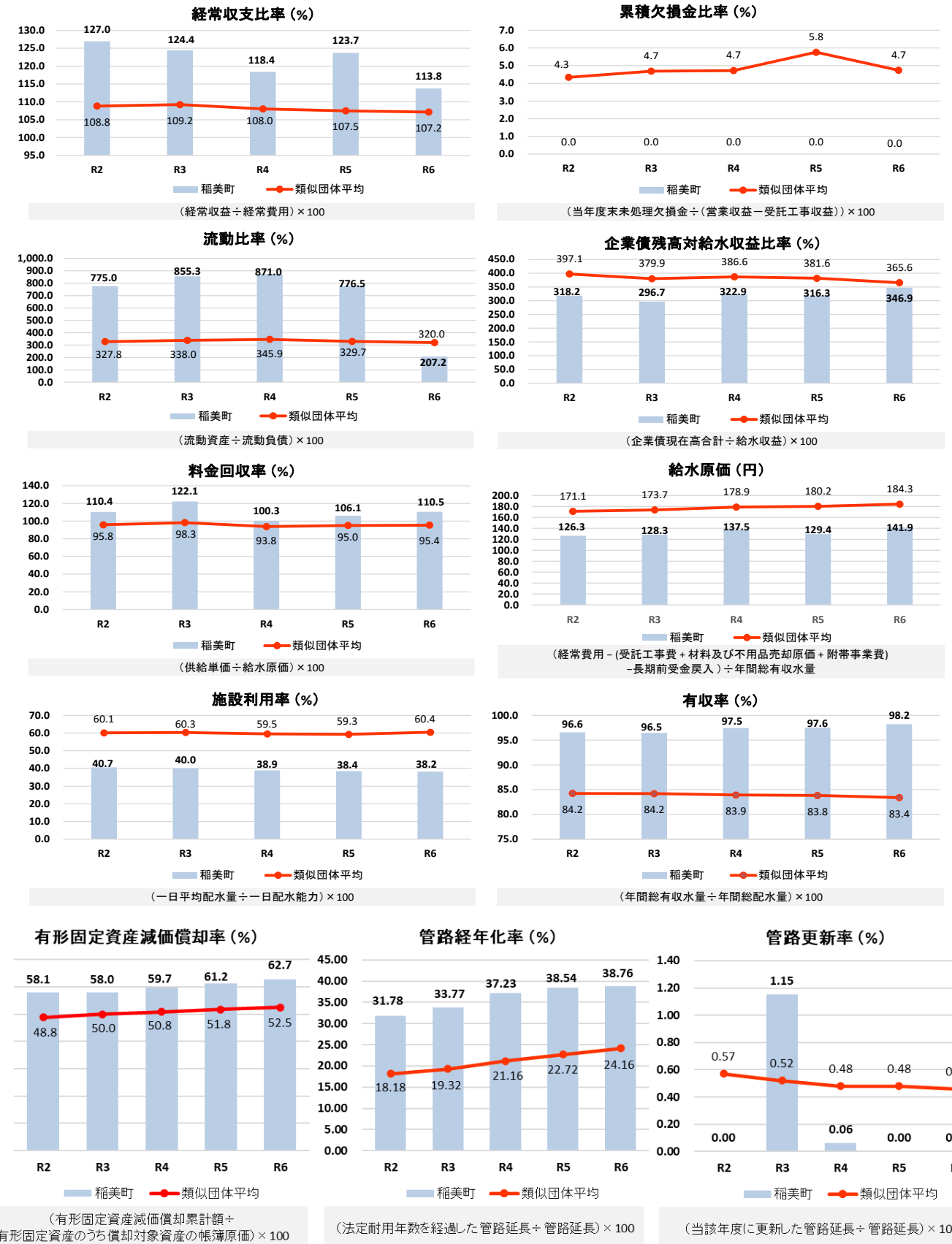


図表1 企業債残高の推移

#### (他団体と比較した経営状況)

稲美町水道事業の経営状況について、経営比較分析表により他団体と比較することで、経営の健全度等の状況を把握することができます。

令和6年度の経営比較分析表によると、稲美町水道事業は、経営の健全性・効率性の面では多くの指標で平均値より良好な数値となっており、現時点では健全経営を維持できている状態であるといえます。一方で、老朽化の状況については、全ての指標で他団体よりも劣位な状況となっており、今後とも老朽資産の対応が必要であると考えられます。

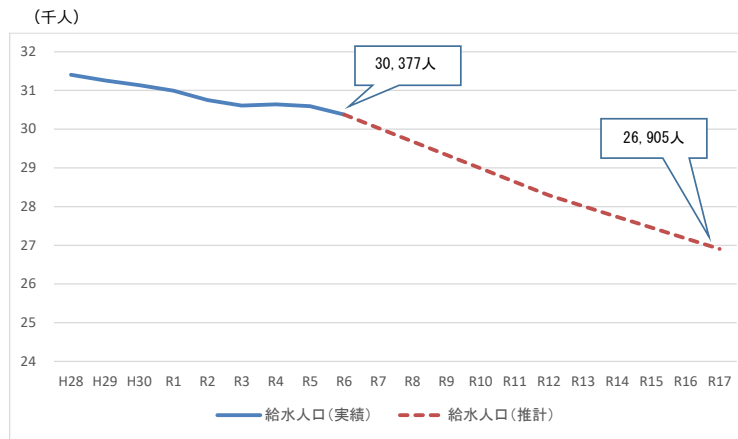


図表2 経営指標の他団体比較

### 第3章 将来の事業環境

#### (給水人口の予測)

昭和45年に水道事業を開始してから給水人口は右肩上がりに伸びてきましたが、平成14年度末の32,919人をピークに減少に転じ、令和6年度末は30,377人となっています。今後の人口予測については、第2期稲美町まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンより推計を行っています。この推計を基に算出すると、令和17年度末には26,905人まで減少すると予測されています。

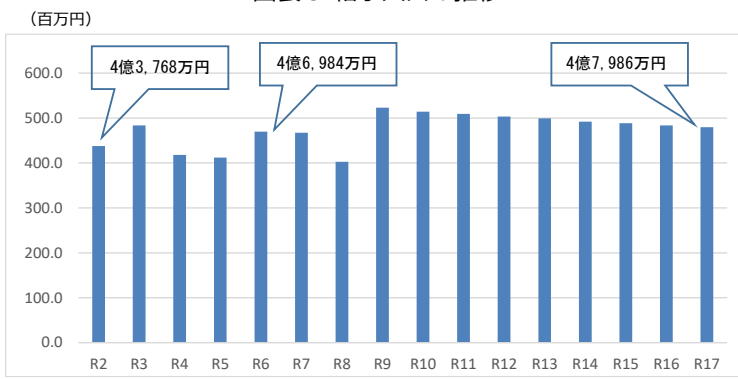


図表3 給水人口の推移

#### (料金収入の予測)

使用水量の減少に伴い、料金収入も平成13年度の5億6,217万7,143円をピークに減少に転じ、令和6年度は4億6,983万5,383円となっています。

料金収入の見通しについて、推計の結果、ピークとなる令和9年度には5億2,317万663円まで料金収入は増加する見込みですが、その後の有収水量の減少に伴い、令和17年度には4億7,986万円まで減少する見通しとなっています。なお、令和4年度、令和5年度、令和8年度は物価高対策に伴う水道料金の減免を行っており、一時的に大きく料金収入が減少しています。



図表4 料金収入の推移及び見通し

### 第4章 経営戦略の基本理念と基本方針

稲美町水道ビジョンで掲げた「安心・安全なおいしい水道水の安定供給を目指す」を踏まえ、稲美町経営戦略における今後の経営方針を次のように定めます。

#### (経営の基本方針)

安全・安心な水道水の供給

経営基盤の強化

投資の適正化

### 第5章 投資・財政計画

#### (投資計画)

##### ●西部配水場更新工事について

現在、西部配水場の更新工事を実施しています。現在の配水量と今後の水需要を踏まえ、第1配水池の容量の縮小(ダウンサイジング)、第1配水池と吸水槽の統合、空きスペースへのポンプ等の移設等により、投資の合理化を図ります。

##### ●主要老朽管更新工事について

アセットマネジメントに基づき、社会的重要性や漏水による影響度、各配水区域への公平性を考慮して、工事工区割りにより、主要老朽管更新工事を行います。

##### ●更新工事に係る事業費(見込)について

今後予定している工事に係る事業費を算定した結果、令和8年度から令和17年度までの期間で24億2,621万円、

| 施工年度     | 管路数 | 延長(m) | 事業費計(千円)  |
|----------|-----|-------|-----------|
| 令和8~17年度 | 老朽管 | 19    | 16,295    |
| 令和18年度以降 | 老朽管 | 35    | 28,375    |
| 合計       |     | 54    | 44,670    |
|          |     |       | 5,647,263 |

図表5 更新工事に係る事業費(見込)

#### (財政計画)

投資計画の財源は、企業債及び水源開発負担金等の工事負担金を充て、なお不足する額については内部留保資金等の補てん財源で補てんすることになります。

#### (投資・財政の見通し)

##### ●収益的収支の見通し

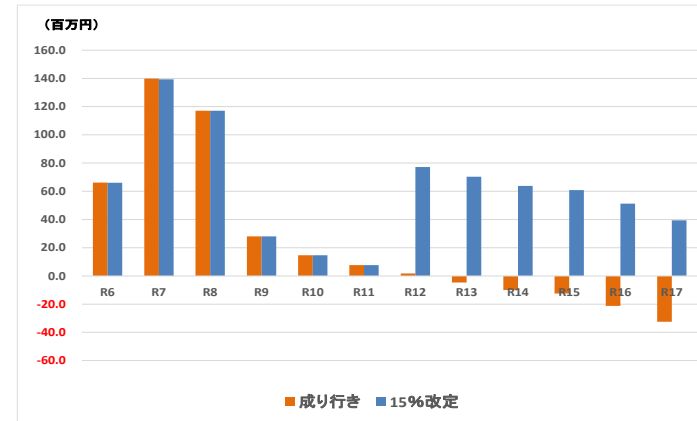
料金改定を実施しない場合は、有収水量の減少に伴う料金収入の減少、西部配水場更新工事や老朽管更新工事に伴う減価償却費の増加、物価上昇等の影響による経費の増加等により、収益的収支は、年々悪化し、令和13年度には赤字となる見通しとなっています。

経営戦略を策定するうえで、「計画期間内に収支が均衡すること」が要件となっているため、改めて、料金改定を実施する場合の投資・財政計画を検討しました。具体的には、令和13年度以降の収支ギャップを解消して計画期間内の収支均衡を図るため、仮に令和12年度に15%の料金改定を実施するものとして試算しました。これによると、令和13年度以降の収支ギャップは解消され、令和17年度まで収益的収支の黒字を確保できる見通しとなっています。

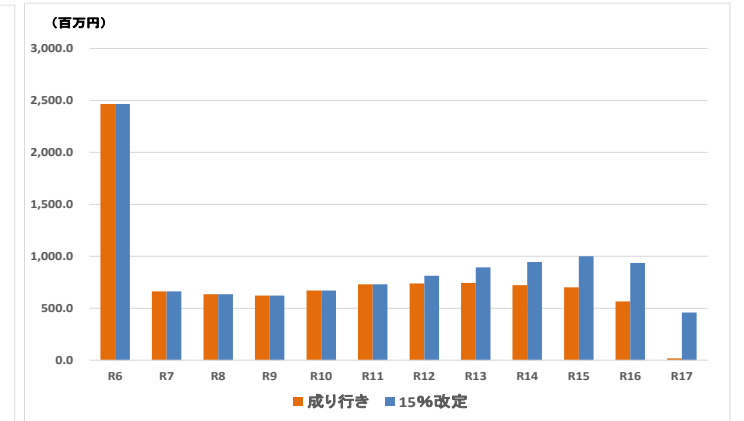
##### ●資金の見通し

事業運営に必要な不可欠な資金面について、料金改定を実施しない場合、西部配水場更新工事や老朽管更新工事に伴い、今後、多額の支出が見込まれているため、現金預金残額は、令和6年度末の24億6,547万円から計画最終年度の令和17年度には1,782万円まで減少する見込みであり、99.3%減少する見通しとなっています。

一方、料金改定を実施する場合(15%)の投資・財政計画では、令和17年度には4億6千万円となる見込みであり、料金改定を実施しない場合と比べると改善する結果となりました。いずれの場合においても、令和6年度の水準と比べると低位となる見通しであり、今後、将来の世代に安全で安定した水道を引き継ぐために、料金水準の妥当性



図表6 収益的収支の見通し



図表7 現金預金残高の見通し

### 第6章 経営戦略の事後検証・見直しに関する事項

#### (経営戦略の目標)

| 指標          | 意味      | 令和6年度(実績) | 令和12年度(中間目標) | 令和17年度(最終目標) |
|-------------|---------|-----------|--------------|--------------|
| 経常収支比率      | 経営の健全性  | 113.8%    | 100%以上       | 100%以上       |
| 有形固定資産減価償却率 | 施設老朽化状況 | 62.7%     | 60.0%        | 60.0%        |

図表8 経営戦略の目標

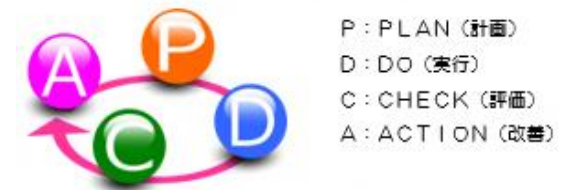
経常収支比率は、令和6年度決算において113.8%となっており、比較的良好な状況となっています。引き続き100%以上を維持することを目標とします。

有形固定資産減価償却率は、今後、ストックマネジメント計画を更新したうえで、当該計画等に基づいて、投資の平準化や長寿命化に留意し、固定資産の老朽化対策や必要な設備投資を実施します。これにより、当該指標が現状の水準にとどまるよう、中間目標、最終目標においても、引き続き60%以下を維持することを目標とします。

#### (計画の見直しと点検・進捗管理の方法)

毎年度、進捗管理(モニタリング)を行い、実施設計の変更や入札減による投資額の変更、漏水等に伴う更新工事の施工順序の変更等、計画と乖離する項目について、随時フォローアップを行った上で、3年から5年ごとに必要に応じて見直し(ローリング)を行います。

また、本計画終期においては、本計画の見直しを反映した令和18年度以降の次期計画を策定します



図表9 PDCAサイクル